

## 「行いに従って報いる」

2018年08月28日

ローマの信徒への手紙 2章1節～10節 だから、すべて人を裁く者よ、弁解の余地はない。あなたは、他人を裁きながら、実は自分自身を罪に定めている。あなたも人を裁いて、同じことをしているからです。神はこのようなことを行う者を正しくお裁きになると、わたしたちは知っています。このようなことをする者を裁きながら、自分でも同じことをしている者よ、あなたは、神の裁きを逃れられると思うのですか。あるいは、神の憐れみがあなたを悔い改めに導くことも知らないで、その豊かな慈愛と寛容と忍耐とを軽んじるのですか。あなたは、かたくなで心を改めようとせず、神の怒りを自分のために蓄えています。この怒りは、神が正しい裁きを行われる怒りの日に現れるでしょう。神はおのこの行いに従ってお報いになります。すなわち、忍耐強く善を行い、栄光と誉れと不滅のものを求める者には、永遠の命をお与えになり、反抗心にかられ、真理ではなく不義に従う者には、怒りと憤りをお示しになります。すべて悪を行う者には、ユダヤ人はもとよりギリシア人にも、苦しみと悩みが下り、すべて善を行う者には、ユダヤ人はもとよりギリシア人にも、栄光と誉れと平和が与えられます。

神を知りながら、神を崇めず、空しい思いに捕らわれ、知恵があると誇りながら、神の栄光を滅び去るこの世のものと取り替えている。創造主の代わりに被造物を拝み、無価値な思いのままに、してはならないことをする。死に値する罪と知りながら、自分だけでなく、他人をも罪に誘い、それを是認する。パウロは、真理を偽りに替え、罪に陥っている人間の姿を描き出している。

その人間たちが互いに裁き合う。人を非難し、裁くことは密やかな喜びを伴う。自分は非難され、裁かれるような人間ではないと思い、自分を高みに置く優越感を持つからである。しかし、その優越感は幻想に過ぎない。パウロは、正しい裁きは神がなさると言う。「すべて人を裁く者よ、弁解の余地はない。あなたは、他人を裁きながら、実は自分自身を罪に定めている。」「わたしたちは知っています。このようなことをする者を裁きながら、自分でも同じことをしている者よ、あなたは、神の裁きを逃れられると思うのですか。」主イエスは、マタイ福音書7章1節、2節で、「人を裁くな。あなたがたも裁かれないようにするためである。あなたがたは、自分の裁く裁きで裁かれ、自分の量る秤で量り与えられる」と語っておられる。パウロはもちろんマタイ福音書を読んでいないが、クリスチャンを非難し、迫害していた自分の心を覗き込んだ時、裁きに熱を上げている自分の心が病み、荒んでいたことを知っただろう。

パウロは、悔い改めに導く神の豊かな慈愛と寛容と忍耐を軽んじてならないと諭す。頑な心を改めようとしない者は、神の怒りを自分の中にため込んでいる。神の怒りは、神が正しい裁きを行われる日に露わになる。それは、終末の日であるが、神は各々の行いに従って報いられる。「忍耐強く善を行い、栄光と誉れと不滅のものを求める者には、永遠の命をお与えになり、反抗心にかられ、真理ではなく不義に従う者には、怒りと憤りをお示しになります。」悪を行う者はユダヤ人であれギリシア人であれ、苦しみと悩みが下り、善を行う者には民族の隔てを越えて、栄光と誉れと平和が与えられる。パウロは「行為義認」を語っているのではないが、神は行いに従って厳正に裁かれると力説する。その裁きは善を行う者には平和が、悪を行う者には苦しみが伴う今の裁きでもあると言っている。